

「なすかしの森 わんぱく体験Day～SDGs de 遊ぼう」報告

令和2年10月11日(日)

【目的・趣旨／概要】

現在、地球でどんな課題があるのかを認識し、行動することが一人一人に求められている。当事業では、なすかしの森ならではの自然体験活動を通して、SDGsを体験的に学び、SDGsを身近なものとして認識してもらうことを目的とする。

【連携先】

研修指導員 三村正氏



【参加者】

《募集対象》 幼児、小・中・高校生を含む家族

《実績》 6家族21名申込、3家族13名参加（大人5名、中学生1名、小学生7名）

【プログラム概要】

【9:00～9:30 受付（正面玄関）】

【9:30～10:00 出合いのつどい（エコルーム2）】

本事業のテーマであるSDGsを大まかに理解し、関心をもってもらうことを目的として、KP法を用いたSDGsの説明を行った。①SDGsがそもそもどんな世界を目指しているのか、②SDGsを達成するために具体的にどのような目標が立てられているのかということを中心に参加者に問いかけながら進めた。

SDGsについての理解度は家族ごとに差があり、すでに知っている家族や、言葉だけは知っている家族など様々であったため、出合いのつどいでSDGsの概要を説明することで、共通認識を図ることができた。



【10:00～11:00 なすかしの森クラフト（エコルーム2）】

SDGsとの関連：「目標15 陸の豊かさを守ろう」「目標12 つくる責任つかう責任」

施設内で拾った小枝や松ぼっくり、どんぐりなどを使い木工クラフトのカレンダー作りを行った。

作り方を全体説明したのち、あらかじめ用意しておいた完成品の見本を見てもらい、完成予想図のイメージを持ってもらった。お気に入りの作品を作るために、のこぎりや紙やすりなどを用いて木の加工に挑戦した子供もいた。また、施設整備で出た廃材を再利用したことや何年、何十年経っても使えるカレンダーをつくったことによって、参加者は繰り返し使うことの大切さを実感していた。



【11:00～12:00 俳句インク・ハイキング（わくわく広場）】

SDGsとの関連：「目標15 陸の豊かさを守ろう」「目標4 質の高い教育をみんなに」



つどいの広場、わくわく広場などの周辺をみんなでゆったりと歩きながら、五感を通して秋を題材に俳句を作った。

ハイキングでは、目で秋を探したり、耳で秋を探したりと五感を意識した問いかけを工夫した。その結果、参加者はふかふかな葉っぱを絨毯に例えて俳句を作ったり、目を閉じて聞こえた葉っぱの音で俳句を作ったりした。

【12：15～13：15 昼食（レストラン）】

【13：30～15：00 なすかしの森SDGsラリー（施設周辺）】

午前中のプログラムによりSDGsの17の目標を知り、考えてもらうために館内外に設置したSDGsポイントを回り、クイズを解くSDGsラリーを家族ごとに行った。

参加者は、SDGsのそれぞれの目標と関係のありそうな場所を予想しながらポイントを探した。家族で相談をしながらクイズを解いていくことで、SDGsには、どのような目標が立てられているのかを知るだけでなく、自分の生活とどう結びついているのかについて考えを深めた。

【15：00～15：30 わかれのつどい（エコルーム2）】

家族ごとに各プログラムで作った作品（クラフト、俳句、SDGsマップ）の発表と一日の感想の発表を行った。

1日を通してSDGsを体験的に学んだことにより、自分の生活とSDGsを結びつけて考えるようになったり、SDGsについてより知りたいと思ってくれるようになったりと参加者の中での変化が見られた。



【企画・運営上工夫したこと】

- ・SDGsと自分の生活とのつながりに気づき考えるきっかけとなるプログラムを意識し、企画運営を行った。プログラムがどの目標とつながっているのかをSDGsロゴを活用して、視覚的にとらえやすくした。

【成果】

- ・SDGsを自分たちの生活と結び付けて考えるきっかけを提供することができた。
- ・SDGsが何かを知るだけでなく、SDGsの実現に向けて行動したいという意欲も育むことができた。

《参加者の声》

「SDGsは、自分たちがやっていることに少し+αすれば達成できることが分かった。」

「これからもSDGsの目標を達成していきたい。」「SDGsのことを詳しく知ることができた。」

「SDGsは社会、世の中に大切。一人一人にも大切。」

【課題と方策】

- ・SDGsを理解してもらうためにプログラムの導入部分を工夫する必要がある。SDGsに関する子供向けの資料を収集分析し、子どもが飽きないSDGsの解説を提供していく。
- ・俳句インク・ハイキングやSDGsラリーを研修支援として実施できるように、団体指導者が分かりやすく、指導しやすい説明資料を作成する必要がある。
- ・SDGsポイントとクイズを発達段階に合わせて改良していく必要がある。今後セカンドスクールなどでプログラムを実施し、SDGsポイントとクイズの内容の精査を行っていく。

国立那須甲子青少年自然の家〔作成〕事業推進係主任：湯川 枢